



主体的に取り組む、放課後補充学習！

～児童・生徒同士が教え合う～

小中一貫教育校の興本扇学園では、放課後の20分間に算数・数学の補充学習（予習）を行っています。eライブラリの解説教材や確認問題を活用した学習の様子と補充学習を運用するための工夫をご紹介します。

中学生が、小学生へ教える



▲ 9年生（真ん中）、6年生のグループ

算数 単元：分数のかけ算を考えよう

6年生の教室では、9年生が「分数のかけ算」の解き方を教えています。

教える側の9年生は、6年生が学習した内容を理解できているかを確認めながら要点を丁寧に説明していきます。

解き方を教わった6年生は、2人で確認問題の例題を読み上げ、交互に答えを出し合うことで、楽しみながら問題に取り組んでいました。

児童・生徒は、**学年を超えた学びを通じて、学ぶことのおもしろさを実感している**ようでした。

自分の言葉で教えることを意識する



▲ 9年生（左）が7年生に教えている様子

数学 単元：多項式の計算

7年生の教室では、9年生が「式の展開」の解き方を教えています。

「解説教材は、教科書で学習する要点がまとまっていて、生徒も説明しやすいようです。」と小田嶋先生。

9年生は7年生の反応を見て、わかりやすく伝えるように、解説教材のポイントや考え方を、自分の言葉で説明しています。

上級生の「より良い伝え方を自ら考え、行動する姿勢」が下級生の刺激になり、主体的に取り組む姿勢に繋がっています。

インタビュー 補充学習でeライブラリを使うようになった背景

放課後の補充学習は、上級生が学んだことを下級生に教える活動を通じて、基礎的・基本的な学力の定着を図ることをねらいにしています。これまで補充学習は、子供たちが手書きで問題作成や採点をして進めていましたが、毎回問題を作ることが難しく、参加意欲の継続が難しいといった課題がありました。

そこで、eライブラリの教材を使ってみたところ、もともとタブレットを使った学習に興味をもっている子供たちは、目の輝きが変わり、より一層意欲的に学習へ取り組むようになりました。解説教材や確認問題を使うことで問題の出題や説明が効率良くできるようにもなり、教えることに集中できるようになって、参加意欲も続くようになりました。

今後の補充学習は、教科の幅を広げ、英語でも実施したいと考えています。



英語
小田嶋 悠喜 先生

■ 補充学習の運用のポイント



- **放課後補充学習の時間の作り方**
年間カリキュラムにあらかじめ組み込んでいる。
- **補充学習（予習）での学習単元の決め方**
9年生の1学期の学習範囲から、下級生の学習系統に関連している単元を選ぶ。
- **グループの分け方**
4月のテストの結果に応じて、「教える側」「教わる側」のグループを分ける。

eライブラリ活用のねらい

- 解説教材と確認問題で、効率良く問題の出題や説明を行うことで、参加意欲の継続を図る。
- 基礎的・基本的な学力の定着を徹底し、学力向上を図る。

先生の工夫

- 補充学習の運用が始まる前に、習熟度に応じてグループを分ける。「教える側」は、人に教えることで自身の定着に繋がり、「教わる側」は、これから学習する単元の予習になるため、全児童・生徒の学びを保障できる。

eライブラリを使った児童・生徒の感想

【教える生徒】

- 解説教材を使うようになってから、下級生に教えるときに例題を書く手間が無くなった。例題がたくさんあるので、短い時間に多くの内容を教えることができるようになった。
- 大切なことがまとまっていて、教科書を使って説明するより教えやすい。
- 答えの求め方や説明・ポイントがまとまっているので、自分も復習になる。
- 確認問題は、シールをはがすだけで正解を一緒に確認できるので、間違えたところをしっかりと教えることができる。

【教わる児童・生徒】

- 問題の解き方が詳しく書いてあるので、わかりやすい。
- タブレットを使って学習できることが楽しくて、やる気が出る。

インタビュー eライブラリを活用した感想と今後の展望

本校では、児童・生徒が自ら考え、学習や生活に意欲をもって主体的に取り組める集団を目指しており、日々の学校生活の積み重ねが、今の児童・生徒の主体的な姿に繋がっています。

これまで生活面は、学校行事で全学年が繋がる機会が多くありましたが、学習面で繋がる機会は少なく、学年ごとの学習内容を9年間も系統立てて教えることが難しいといった課題がありました。

放課後補充学習を実施することで、学年を超えた学び合いを通じて、学習面での繋がりができました。eライブラリは、1年生から9年生までの全学年の教材が収録されており、放課後補充学習の教材として、とても重宝しています。

今後は、9年生が受験の時期になるため、8年生が「教わる側」から「教える側」に代わり主体的に補充学習を進めていきます。これからはeライブラリを使った教え合いを、一つの学びの姿勢としたいと思います。また、家庭学習にも展開していきたいと考えています。



副校長
鵜飼 康成 先生